

平成23年度環境問題研究助成申請研究について（総評）

環境問題研究助成 選考委員長 村岡 浩爾

今年度は昨年度同様、募集研究課題を「持続可能な循環型社会をめざした農林水産業等（社会経済活動）の今後の取り組みに関する研究」としております。趣旨は次のとおりです。

・ 私たちの日々の暮らしやその支えとなる社会経済活動は地球環境という基盤の上にならなければ成り立っていないという認識が必要です。今、様々な分野で「環境に優しい」を合言葉に**環境に適合する社会経済活動**が進められていますが、今回は特に「自然環境」に最も近い社会経済活動としての「農林水産業」を研究のテーマとして選定いたしました。「**農林水産業**」は文字通り「農業」「林業」「水産業（漁業）」を意味し、太陽と豊かな自然環境の恵みを基盤とする、つまり「**自然界の物質循環に依存する**」ものであり、その生産活動を通じてさらにこのような循環に資するなど、本来自然環境と調和した社会経済活動です。「農林水産業」は食糧問題ばかりではなく、水資源・水質問題、生物多様性保全、CO2 問題、伝統的文化の保存、景観や自然のリフレッシュ効果などと密接に繋がっており、「**自然環境と人間生活**」に多大な影響を与える社会経済活動です。

・ 持続可能な循環型社会を創りあげるというアプローチから、今後の「農林水産業」をどうして行くべきか、従来の問題解決だけでなく、新たな課題を掘り起こすことも視野に入れた、時間軸・空間軸という二つの視点を踏まえた研究を募集します。

○ **応募件数は 256 件**（学際的総合研究 27 件、個別研究 116 件、若手研究 113 件）です。

助成採択件数は 26 件（学際的総合研究新規 0 件・継続 1 件計 1 件、個別研究 12 件、若手研究 12 件その他特別研究 1 件）となっております。

○ 今回の応募研究を見ますと、まず**学際的総合研究**ですが、今回、応募件数は 27 件ありましたが、**採択に該当する研究ありませんでした**。

「環境と農林水産業」というテーマに課題名を合わせてはいますが、「農林水産業という社会経済活動が自然環境課題と密接に結びついている点を様々な視点から切り込んだ研究」という期待に対し、農林水産業の課題中心で**環境保全との関係が突っ込み不足のもの**や、研究の**具体性を欠くもの**や、**個別的な研究を集合したもの**、**技術的な研究や狭義の課題（地域）に関する研究**が多くみられました。学際的総合研究に求めるものは、**総合研究としてどう総括していくかを十分に検討した研究**であり、**研究体制も十分整えた研究**です。学際的総合研究の新規採択研究がないことは非常に残念ではありますが、今後申請される方は、**課題に対してチームで十二分に検討しあい、具体的な研究方法や学際的な運営の展開の仕方や具体的提言の方向性を示していただく**と思います。

○ 次に**個別研究**ですが、今回発生した東日本大震災の復興に向けた具体的かつ時を得た提言性のある研究がみられました。**これらの研究の中から、被災地域を中心に地域としての再生をめざした特別研究チームを今回あらたに結成いただくことといたしました**。また、この他にも研究の視点が鋭く提言性の高い研究がありました。

その反面、**具体的な研究の展開方法や環境保全との関係がよく分からない申請**も多かったようです。また、研究課題の選定において**分析が甘く**、その他の課題を見過ごし

平成23年度環境問題研究助成申請研究について（総評）

環境問題研究助成 選考委員長 村岡 浩爾

ている申請や調査やデータ収集を目的とする申請がまだ多いようです。また、予算の立て方が、十分に推敲されてない申請や過大な旅費中心の申請がありました。

- 最後の**若手研究**ですが、これまでの研究業績が豊富であり研究内容も期待できるものがあるなど、今年度も**着想や研究計画や準備状況がしっかりしている**ものが多くありました。しかし、従来からある基礎的過ぎる研究中心の申請も多く、実験中心であり日本生命財団の主旨である「**人間活動と環境保全との調和**」にそぐわない申請や、未だに特定の生物の観察中心の申請も多く見受けられました。